

ペスタロッチャー教育賞 受賞者紹介

日本ユニセフ協会大使

アグネス・チャン氏

アグネス・チャン氏は、1955年香港に生まれ、1972年「ひなげしの花」により日本で歌手としての活動をスタートした。上智大学国際学部を経て、1978年カナダ・トロント大学（社会児童心理学）を卒業、1984年国際青年記念平和論文で特別賞を受賞し、翌1985年には国連世界青年年の催しに参加して中国北京でチャリティーコンサートを開いた。同年、エチオピアの飢餓に苦しむ難民キャンプを訪問したことが大きな契機となり、芸能活動のみでなく、ボランティア活動、文化活動にも積極的に参加するようになった。1989年米国スタンフォード大学大学院（博士課程・教育学）に留学し、1994年教育学博士号（Ph.D.）を取得している。

1998年日本ユニセフ協会大使に就任、タイ、スーダン、東西ティモール、フィリピン、カンボジア、イラク、モルドバなど、世界各地を訪問、取材し、その実状を講演活動やマスコミを通して訴えかけている。著書に『みんな地球に生きる人』（岩波ジュニア新書）、『戦争と平和 そして子どもたちは・・・』（オリコン・エンタテインメント）、『小さな命からの伝言』（新日本出版社）ほかがある。

第一にあげられるべき氏の業績は、「世界のすべての子どもたちに教育を」という願いをもって、世界の困難な状況におかれている子どもたちを訪問し、その窮状と支援の必要性を日本をはじめとする世界に訴えかけつづけている活動にある。1985年のエチオピア難民キャンプ訪問をはじめ、とりわけ日本ユニセフ協会大使就任後1998年にはタイの児童買春問題、1999年にはスーダンの「子ども兵士」の実態、2000-2001年には東西ティモールやフィリピンの紛争地域で危機的な状

況にある子どもたちの姿や児童労働問題を現地で目の当たりにし、支援の必要性を強く提起した。2003年にはイラクを訪問、戦争の犠牲になった子どもたちの過酷な状況を、帰国後6日間のティーチインで訴えかけた。2005年には再びスーダンを訪れ、政府と反政府勢力の激しい衝突の中で184万人の難民（うち18歳以下130万人）が転々としながら暮らすキャンプの状況を視察し、支援の方法を調査してきた。戦争や貧困、飢えや疫病といった大人社会に起因する過酷な状況におかれた子どもたちに実際に接し、彼らに寄り添いながら彼らの悲痛な声、彼らの「生きる権利」を彼らに代わって訴えかける氏の功績は大きい。

またユニセフ協会大使としての体験に基づいた氏の講演やボランティア活動も日本の教育、子どもたちに多大で重要な意味を有している。氏の発信するメッセージは、世界の政治や経済の状況が子どもたちにどのような影響を及ぼし、いかなる深刻な問題を引き起こしているのかを知らせ、私たち一人ひとりが何をなすべきかを考えさせるものである。ひるがえって我が国の子どもたちのものがあふれた生活への問題提起にもなっている。実際に氏は、小学校等を訪れた場で「世界の子どもたちへの応援メッセージ」を提案し、学校へ行けない世界の多くの子どもたちの存在に目を向けること、今自分たちに何ができるのかよく考えることを日本の子どもたちに呼びかけている。

このように、戦争や貧困という大人社会の悪に立ち向かい、その過酷な状況の中で生きる子どもたちの救済に取り組む氏の活動は、まさにペスタロッチャーがノイホーフの貧民学校やシュタンツの孤児院でめざした教育活動、精神に通じるものである。世界の子どもたちへの愛情に基づいたアグネス・チャン氏の真摯で献身的な活動並びにその多大な功績に対し、第14回ペスタロッチャー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。